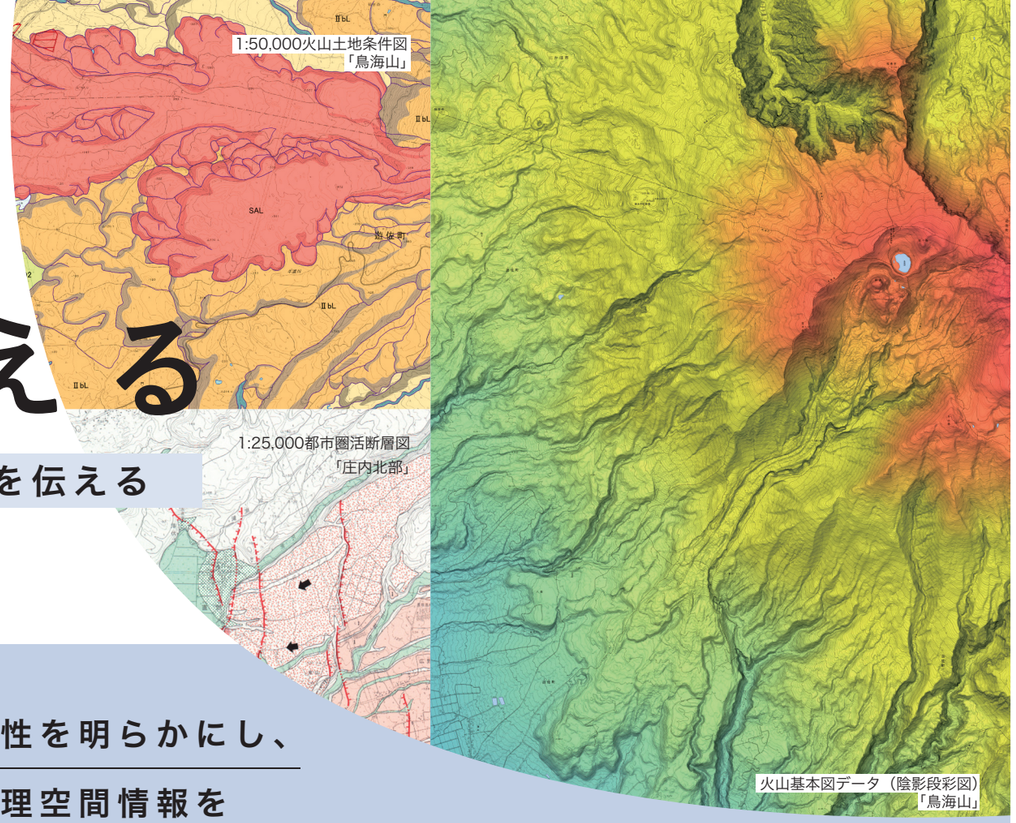
伝える

国土の姿を伝える

Convey



土地の特性を明らかにし、

多様な地理空間情報を

国民に届けます。

地形と自然災害には密接な関係があります。その関係を読み解き、用途に応じて地図に表現することで「防災地理情報」は作られます。

また、防災地理情報に限らず、暮らしを取り巻く位置に関連する情報は「地理空間情報」と呼ばれています。歴史的資料から最新の地図まで、地理空間情報を簡単に検索・閲覧・入手できる環境を提供しています。

column

身のまわりの災害リスクを知る

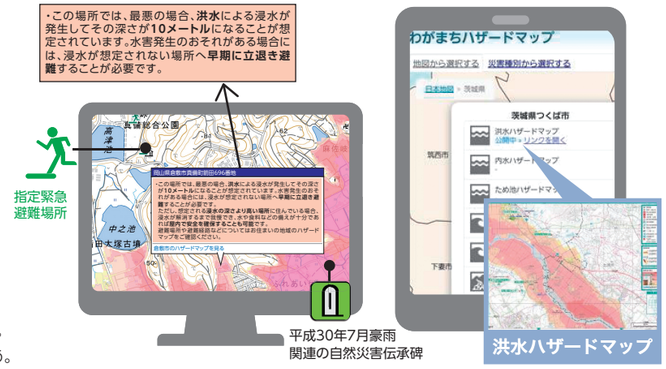
（ハザードマップポータルサイト）

ハザードマップポータルサイトでは、自然災害の危険性や避難所についての情報を公開しています。防災に役立つ様々なコンテンツを重ね合わせたり（左図）、全国の市区町村が作成する最新のハザードマップを閲覧すること（右図）ができます。

2023年には、想定される災害リスクや災害時にとるべき行動がマップだけではなく文字で表示される機能を追加（音声読み上げソフトにも対応）しました。

見慣れた風景の中にも災害リスクは潜んでいます。

ハザードマップを確認し、避難経路を検討しましょう。



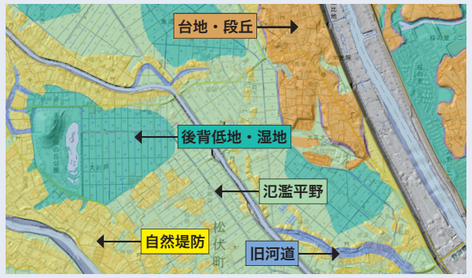
平成30年7月豪雨
関連の自然災害伝承碑

防災地理情報

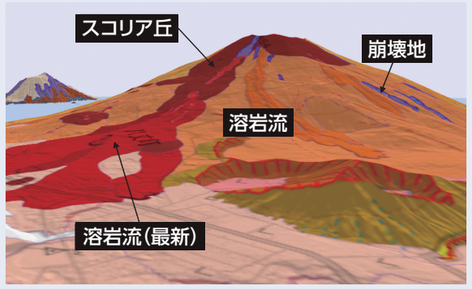
土地の成り立ちや土地の利用等に関する**地形特性情報**と、災害伝承に関する**災害履歴情報**からなる**防災地理情報**の整備・発信、それを用いた教育支援に取り組んでいます。これらを推進することで、国民の防災意識向上に貢献します。

地形特性情報

地形特性情報の代表的なものとして、土地の持つ自然災害リスクを可視化する「**地形分類**」、過去の火山活動によって形成された地形や噴出物の分布を示す「**火山土地条件図**」があります。地形分類に示す「後背低地・湿地」は他の地形に比べ土地が低く、浸水の影響を受けやすいことが知られています。このように可視化された土地の特性は、防災計画や地域開発計画等の基礎情報として活用されています。



地形分類（ベクトルタイル）



火山土地条件図

災害履歴情報（自然災害伝承碑）

自然災害伝承碑は、過去に発生した自然災害の様相や被害の状況等を先人達が後世に伝えるために作られた石碑やモニュメントです。

2021 年度から重ねるハザードマップにも掲載を開始し、地理院地図等への掲載数は、2023 年 9 月に 2000 基を超え、現在も着実に数を増やしています。防災教育や地域学習などの場等で活用され、先人の教訓を未来へつないでいくことが期待されます。

ウェブ地図上のアイコン

2万5千分1
地形図上の地図記号

御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑

教育分野における活用事例

地理・歴史や小学校社会科等の教材

地域学習における活用事例

歩こう会の探訪コースの目標物など

地域の防災力向上を目指す防災・地理教育の幅広い支援

2022 年度から高等学校で「地理総合」が必履修化されました。充実した授業を支援するため、生徒・教員の双方が利用できるウェブコンテンツ「地理教育の道具箱」を公開しています。

その他「教科書・教材出版社への説明会」の開催等、防災・地理教育の支援を目的とした様々な取組を行っています。

社会科の先生への講演

教科書・教材出版社説明会

地理教育の道具箱
「一目瞭然! イラストで学ぶ過去の災害と地形」